

### 31. おっかわ寺子屋ちょっこり

記録：星大輝

場 所：乙川公民館（愛西市宮地町東電面 95）

開催日時：毎月第 1・3 土曜日

対 象：6 歳から 18 歳までの子ども

参加費：参加者（子ども）無料 会員・見学者（ビジター）食費 300 円

代 表：新美晃代さん（日本福祉大学の講師 保健師）

参加日時：2017 年 2 月 4 日（土）10：00～15：00（ボランティア 9：00～16：00）

参加人数：子ども 17 人、大人 6 人、見学（ビジター）2 人

献 立：マーボー白菜、ナムル、浅漬け

参加者：星大輝

地元の言葉で「ちょっとおいで」を意味する「ちょっこりん」から名付けた「おっかわ寺小屋ちょっこり」

- ・安心して関係性を学ぶ場
- ・学習する機会
- ・日常生活に必要な知識、技術を身につける機会を、地域住民として場を整え提供することで、地域に住む子どもたちが健全に育つことのできる環境を保障することを活動目的としている。

#### ◎流れ

10:00～ あいさつ

10:30～ 食事準備

12:00～ お昼ごはん

14:30～ おやつ

15:00 子ども解散（ミーティング）

#### ◎きっかけ

NHKスペシャルの「食べて語ろう」という番組をみたことがきっかけ。シンナーを吸っている少年の「おなかがすいている。シンナーを吸えばそれがまぎれる」という言葉に衝撃を受けた。そんな非行少年に広島の実家でご飯を食べさせている“ばっちゃん”と呼ばれる人の活動を知った。主婦友に呼びかけ、主婦 4 人で「子どもたちの生きる力を育む環境づくりをしたい」という想いから始めた。

#### ◎場所、設備

乙川公民館。登録団体になっているので使用するのにお金はかからない。その代わりに、年に 2 回公民館の大掃除に参加しなければならない。光熱費もタダ。市のルールでエアコンだけ 1 時間 100 円かかる。調理器具は公民館にあるものを借りている。乙川公民館で活

動するメリットは、県営乙川住宅に近いので子どもが自分の意志で自分の足で来ることが出来ることと、公民館を利用する大人たちが活動をみて、子どもたちに声をかけてくれることである。子ども側としては色々な大人たちと関わるきっかけが増え、大人側としては子どもの課題に関心をもってもらえる機会が増える。

#### ◎資金

会員が毎月1人1,000円ずつ出している。会員数は、10人。また、社会福祉行議会から半田市はなちゃん助成金として5万円もらった。

#### ◎食材、メニュー

食材は、寄付が多い。地域の人が趣味で家庭菜園をやっている人が多く、食べきれない分を持ってきてくれる。参加した日のお米、はくさい、だいこんも寄付。食材や調味料は、公民館においておけないので毎回持ち運んでいる。メニューは、会員の人が前日にある食材を確認してLINEで話し合っていて決めている。食事は、20食分作っている。保存のきかない野菜や食事の残り物はボランティアに来てくれた学生たちに持って帰ってもらう。アレルギー対策はしていない。

#### ◎宣伝

最初に1回だけ近所の住宅にポスティングをした。今は、子どもたちが友達を連れてくる。また、新見さんの持っている講義で学生へのボランティアを呼び掛けている。

#### ◎課題、悩み

ボランティアに来てくれる子の中には電車で来てくれる子もいるので交通費を出してあげたいがその分の資金がない。また、当日にならないと活動のボランティアに誰が来てくれるのかが分からない。ボランティアの手が足りない。乙川に来てくれるのもうれしいがキャパの問題があるのでこうした子ども食堂が各地にもっと出来てほしい。子どもたちが好きな場所を選べるようになってほしい。ボランティアも地産地消。

#### ◎感想、気づき

ご飯の提供だけでなく、子どもが公園で遊んだり、宿題をやったりなど自由な時間がとても多かった。子ども食堂というよりは、学童保育という感じだった。参加している子どもは、近所の子が多かったが、ほとんどの子が子どもたちだけで来ていた。新見さんが言った「子どもが自分の意志で、自分足で来られる場所」というのが形になっていてすごいと感じた。参加した子どもたちは、通っている小学校が違ったり、学年がばらばらだったりしたが子どもたちだけでもとても仲良く過ごしていた。

◎写真

